科目名	コンサルテーション論	分野・必選別・単位数	共通科目	選択	2単位

担当教員	◎講師　石見和世						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義

授業の概要	看護および保健・医療・福祉など、ケアを提供する専門職者が直面するさまざまな問題を解決するための援助方法としてのコンサルテーションにおける現象の見方と方法を、講義及び演習にて探求する。専門看護師、認定看護師等のリソースナースが臨床や地域で行う、より専門的で高度なコンサルテーションの方法を、プレゼンテーションと討議により深めていく。 また、従来の問題志向（プロブレム・フォーカス）のコンサルテーションで、十分な解決が図れずに問題の複雑化、長期化を招いてきた現状を踏まえ、解決志向（ソリューション・フォーカス）のアプローチを学び、短期間に有効なコンサルテーションの方法を演習によって身につけることにより、看護実践の発展や組織変革を目指した高度な看護実践におけるコンサルテーションの方法を理解する。
授業の到達目標	①危機理論について、その概念と臨床的意味について説明できる。 ②危機介入の方法が、その歴史とともに説明できる。 ③コンサルテーションの基本概念と特性が説明できる。 ④コンサルテーションの種類と、コンサルタントの役割・機能が説明できる。 ⑤コンサルテーションの展開と過程が説明できる。 ⑥専門看護師、認定看護師等のリソースナースの行うコンサルテーションの実際を知り、討論することができる。 ⑦解決志向（ソリューション・フォーカス）アプローチの理論の可能性について説明できる。 ⑧解決志向（ソリューション・フォーカス）アプローチの方法が実践できる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	石見　和世　講　師	＜危機理論＞ 危機とは何かが説明できる（基本性質・特徴・臨床的意味）。
2	石見　和世　講　師	＜危機介入＞ 危機介入の方法が説明できる（歴史的観点・介入の基本的考え・介入方法）。
3	石見　和世　講　師	＜危機介入事例検討＞ 過去の危機介入の事例について、整理してプレゼンテーションができる。
4	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの理論＞ コンサルテーションの基本姿勢と意義、基本特性について説明できる。
5	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実践Ⅰ＞ 高度専門看護師による実践報告（専門・認定看護師によるコンサルテーション）を学び討議できる。
6	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実際＞ コンサルテーションの種類・コンサルタントの機能及びプログラムについて説明できる。
7	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実際＞ 自己の（クライエント中心・コンサルティ中心）コンサルテーション・プログラムが作成できる。
8	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実際＞ 作成したクライエント中心・コンサルティ中心コンサルテーション・プログラムのプレゼンができる。
9	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実践Ⅱ＞ 高度専門看護師による実践（組織変革につながるコンサルテーションとは）について討議できる。
10	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実際＞ 組織変革につながる コンサルテーション・プログラムが作成できる。
11	石見　和世　講　師	＜コンサルテーションの実際＞ 作成した組織変革につながる コンサルテーション・プログラムのプレゼンテーションができる。
12	石見　和世　講　師	＜解決志向（ソリューション・フォーカス）アプローチの理論＞ SF式アプローチの理論が説明できる。
13	石見　和世　講　師	コンサルテーション（演習） SF式アプローチの方法を、コンサルテーションの場面でどのように活用するかを探求できる。
14	石見　和世　講　師	コンサルテーション（演習） 実際に行ったSF式コンサルテーション事例のプレゼンテーションを行い、今後の課題を発見できる。
15	石見　和世　講　師	講義の振り返りと習熟度確認

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	代表的な危機理論について調べ、その臨床活用の方法について理解しておくこと。 ブリーフ・セラピーないしはソリューションフォーカスアプローチに関連した書籍を熟読しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。
教科書	山本和郎（1986）コミュニティ心理学−地域臨床の理論と実践−東京大学出版 森俊夫・黒沢幸子（2002）森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向のブリーフ・セラピー，ほんの森出版	
参考書	特に定めない。講義の中で適宜紹介する。	
成績評価の方法および基準	資料作成・プレゼンテーション30%、討議内容20%、最終レポート50%により評価する。	
その他履修上の注意事項	理論と実践を結びつけながら学修するためのフィールドを確保しておくことが必要になる。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2およびDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。	